

## エクアドル バナナ輸出業者団体が病害に対処

[EUROFRUIT 2024年10月1日](#)

### AEBEと州政府関係者が農場を検査・管理する監視チームの計画を策定

エクアドルのバナナ輸出業者協会(AEBE)は、壊滅的な病害であるフザリウム熱帯株4(TR4)及び細菌性のモコ病(萎凋病)と闘うため、ロスリオス州の政府関係者と協力協定を締結した。先週合意されたこの連携協定には、地域全体のバナナ農園を脅かす病気の蔓延を監視、予防、抑制する専門のバイオセキュリティ「部隊」(複数)を設置する計画が含まれている。

バナナの主要産地であるロスリオス州は、これらの植物病原体に対して特に脆弱であると言われている。検査チームには、脆弱な農場で検査を実施する専門技術者が参加する。彼らは、バイオセキュリティキットの提供、衛星技術を使用したリスクの高い地域の監視、及び感染ホットスポットの検出を担当する。

AEBEの広報担当者は、「これらの取組みは、フザリウム菌TR4と細菌性モコ病の蔓延を抑制するだけでなく、ロスリオス州とエクアドルの経済に不可欠なバナナ農園の持続可能性と生産性を強化することを目指すものである」と述べた。

エクアドルのバナナ統計調査によると、ロスリオス州では合計2,637ヘクタールがモコ病に感染している。

一方、AEBEは、バナナの輸出は引き続き減速しており、8月までの出荷量は2023年の同時期と比較して460万箱少ない(1.83%減)としている。

執筆者: マイク・ノウルズ

## 南アフリカ 生食用ブドウ業界は2024-25年度の輸出量を微増と推定

[FreshPlaza 2024年10月2日](#)

南アフリカの生食用ブドウ業界は、来たる2024/25年度シーズンの輸出検査数量が、2023/24年度の検査実績と比較して約1%増加すると予想している。全国の出荷量は7,640万箱(4.5kg/箱)と予想される。

今シーズンのお荷量の最初の推定における南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)の特記事項:

上限は約7,870万箱と予想され、下限は約7,410万箱と予想される。この数字は、5年間の平均出荷量に比べて6%多く、南アフリカは世界市場に十分な品質の産品を供給するのに適した状況にある。

北部の複数の州の合計出荷量が3%減少することは、栽培面積の8%の減少に帰することができる。バルク川流域とヘックス川流域の予想出荷量は、引き続き5年平均に非常に近いと予想される。

この冬のシーズンには低温が観測された。これは、作物が高品質になる前向きな指標である。冬の雨はダムの水位を好ましく増加させ、通常シーズンには十分な水供給を支える。

SATIの最新のブドウ悉皆調査では、種無し白ブドウ品種が引き続き増加していることが示唆されており、南アフリカが世界市場のニーズに合致していることを示している。

出荷業者は、産品を最適な状態で市場に供給するため、引き続き品質を重視している。SATIが委託した物流予測モデルの開発は、生食用ブドウのバリューチェーン全体のデータを考慮に入れて最適な物流ソリューションを予測することにより、これを促進する。業界関係者は引き続き、南アフリカが世界中の小売業者にとって好ましい原産国としての地位を維持できるよう取り組んでいる。

出荷量の最初の推定値は、複数の要因に基づく合理的な推論を示している。必要に応じて数値を修正する場合がある。